

入札等監視委員会の議事概要の公表について

北九州市入札等監視委員会の平成30年度第2回定例会議を次のとおり開催したので、別添のとおりその議事概要を公表する。

記

開催日時 平成30年8月24日（金） 14：00～15：40

会 場 北九州市庁舎3階 特別会議室B

平成30年度第2回 北九州市入札等監視委員会 議事概要

1 会議名

平成30年度第2回北九州市入札等監視委員会

2 開催日時・会場

開催日時 平成30年8月24日（金）14:00～15:40

会場 北九州市庁舎3階 特別会議室B

3 出席委員（五十音順）

今泉 恵子、田籠 亮博、中尾 美佐、松田 亨、森江 由美子

4 議事

（1）平成30年度第1四半期の工事契約状況等の報告

ア 次の事項について報告した。

- ・工事契約件数及び契約金額について
- ・建設工事等有資格業者に係る指名停止及び資格取消について

（2）平成30年度第1四半期の工事契約抽出案件の審議

ア 抽出方法について

審議する案件は、平成30年度第1四半期に契約をした工事の中から、松田委員が10件（契約課契約分8件、東部整備事務所契約分2件）を抽出した。

イ 審議における質疑等

（問） 総合評価、一般競争入札による建築工事で、落札率が99.91%と非常に高いことから、詳しい入札状況を知りたい。

（答） 市営住宅の耐震工事は、住民が入居したままの状態で行わねばならず、業者からは敬遠されがちな工事である。今回は、5者が入札参加の意向を示していたが、そのうち1者が辞退、2者が手持工事等の条件により入札に参加することができず、残り2者での入札となった。結果、競争性が確保できず、落札率が高くなったと考えている。

（問） 公告にある競争入札参加資格の要件で、手持ち工事が無いことという要件はどの工事でもあるのか。

（答） 工種や状況によっても違いがあり、手持ち工事があっても入札に参加できる場合もある。

（問） 一般競争入札による管工事で、参加業者数が3者と少なく、落札率が100%であるため、詳しい入札状況を知りたい。

（答） 大規模改修機械工事は手間がかかるため、参加を希望する業者が少なく、当案件においても参加したのは3者のみであった。さらに開札日当日、同種の大規模改修機械工事の開札が4件あり、その一つを落札した業者が入札に参加できなくなったことから、2者での入札となった。結果、1者が最低制限価格を

下回り、予定価格で応札した残り1者が落札することとなり、落札率が100%となった。

(問) 指名競争入札による電気工事2件だが、指名業者数は同じく6者と少ないためその理由と、一方で落札率は両者の間に10%以上開きがあるため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 信号機移設工事は福岡県交通信号連絡協議会に加盟している業者のみが参加できることになっている。北九州市内では6者が加盟しており、今回はこの6者すべてを指名した。一件目の案件は予定価格に対する最低制限価格の率が高いため、落札率も高くなる結果となった。二件目は一件目より予定価格に対する最低制限価格の率が低く、落札率も低くなったと考えている。予定価格に対する最低制限価格の率は、直接工事費等の比率に関わっており、工事の内容によって違ってくる。

(問) 指名競争入札による管工事だが、指名業者数が76者と非常に多いため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 当該予定価格は管工事の標準請負金額のA、Bランクの両方を指名できる価格帯であったので、両方のランクの業者を指名することにした。また、本市の方針として対象となる全市の業者を指名することにしており、指名業者数が多くなった。

(問) 辞退が多いのはなぜか。

(答) 辞退の理由は、技術者が配置できない、価格が合わない等様々であるが、数多く指名すればその反面辞退をする業者も多くなるのは仕方がないと考えている。

(問) 指名競争入札による機械器具工事だが、落札率が70.37%と低いため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 今回は、直接工事費に占める機器購入の割合が多いため、最低制限価格を設けていなかった。機器の購入面で企業努力が働き、落札率が下がったと考えている。

(問) 指名競争入札の港湾工事であるが、指名業者数が31者と多い割には、落札率が95.03%と高いため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 港湾内を移動する船舶や海上保安庁部との調整が必要であり、作業船舶の係留方法などの施工管理能力も求められることから、業者にとっては手間のかかる工事だったといえる。結果、入札に参加したのは4者のみで、落札率が高くなったと考えている。

(問) 随意契約による火葬炉改修の機械器具工事で、予定価格が1億円以上と高いため、特命随意契約となった理由を知りたい。

(答) 火葬炉は多くの特許技術が使用されており、構造や使用材質等メーカー独自の工夫がなされているため、当初設計施工を行ったメーカー以外の対応は困難であることから、特命随意契約とした。

(問) 指名競争入札による舗装工事だが、落札率が100%であるため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 今回は、標準的一件工事の指名競争入札を行い、その落札業者が、指定期間内において、指定された内容について施工するという環境整備事業の業者決めの工事であった。環境整備事業は機動性、迅速性、安定性、継続性が求められ、それらを兼ね備えた業者を選定することにしている。よって、当該区の申請工種の第一順位が舗装業者の中から、事前に格付けや工事成績、作業体制がとれるか等々を調査して、対象となる業者10者を選定した。入札では、1者が辞退、1者が先行工事を落札したことにより入札に参加できなくなり、残った8者のうち7者が最低制限価格を下回った結果、予定価格で入札した業者が落札することになった。

(問) 最低制限価格を下回った業者が多いが、ランダム係数は高めだったのか。

(答) 比較的高めであった。

(問) 指名競争入札による電気工事だが、環境整備事業の業者決めの入札で業者数が3者と少ないため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 業者の指名にあたっては、当該区の申請工種の第一順位が電気で、格付けや工事成績、作業体制などを調査した結果、3者を指名することとした。ちなみ業者が多い区では7者を指名しており、当該区は業者数自体が少なく、条件を満たす業者が3者しかなかった。入札には選定した3者とも参加したが、2者が最低制限価格を下回り、残る1者が落札することとなったが、結果は妥当な落札率であったと考える。

(問) 3者とも最低制限価格を下回っていたら、どうなっていたのか。

(答) 入札不調になり、設計を見直して再度入札することが考えられる。

(問) 工事のランクだとB, Cランクのはずだが、選ばれた業者はA, Bランクになっているのはなぜか。

(答) 通常は工事の価格から見てB, Cランクが対象になる工事だが、今回は1年を通して行う環境整備工事の業者決めの工事であったため、B, Cランクではなく、A, Bランクから選定した。

※ 次回の委員会は、平成30年11月22日(木)に開催することとなった。